

大阪市立横堤小学校

令和5年5月31日

学校だより(6月号)

発行

自分を大切に 友だちを大切に

～ いじめを許さない 温かい横堤小に ～

5月8日より、新型コロナウイルスの取り扱いが5類相当になり、規制がかなりなくなりました。学校生活の中で、マスクは基本必要がなくなりました。とはいえ、まだまだ不安な面もあり、各家庭の判断で、マスクを着けて登校している子どもも見られます。マスクを外して登校している児童数が、全児童数の4分の1程度という現状です。これから、湿度も気温も上がり、熱中症に気を遣う時期になります。マスクの取り扱いについては、お子様の退潮と相談の上ご家庭で判断をよろしくお願いいたします。

本校では、コロナ以降、春の遠足は実施していません。その代わりに、5月のこの時期に、各学年で鶴見緑地へ校外学習に行くことになっています。天候の加減で、まだ実施できていない学年もありますが、すでに実施済みの学年では、どの学年も交通マナーやトイレの使い方や遊具の使い方など、ほかの人のことも考えて行動できていました。一例ですが、2年生の校外学習の出来事を記します。2年生の子どもたちの中で、公園に遊びに来ていた保育園、幼稚園にも就学していない幼い子どもに気を配っている場面を見ることができました。「小さい子が乗っているから、ゆっくり回してあげよう」「怖くない、大丈夫？」など気遣う声が2年生の子どもたちからさりげなく出ていて、とてもほほえましく、頼もしく思えました。横堤小の子どもたちの温かな思いやりを感じました。自分本位、周りに目がいかない子が増えている中で、横堤の2年生は異年齢の子どもたちとなかよく過ごす場面をたくさん見ることができました。

話は変わりますが、5月8日(月)の全校朝会は、「いじめについて考える日」でした。これは、大阪市全体で行っている取り組みで、この日は起こってはいけない「いじめ」について、向き合うことを考える日でした。「自分は友だちを傷つけていない」と思っている、自分が友だちにかける言動は、「相手がどう感じるかでいじめになる」という話をしました。特に、複数で一人の子に嫌な思いをさせたり、手紙やLINEなどのSNSサービスで悪口を書いたりすることも、ひどいいじめであると伝えました。いじめが原因で、学校に来られなくなる子が出て、極端な場合、思い悩んで自死を考える子のだと全校児童の前で伝えました。いじめにつながる何かが起こったとき、先生たちや保護者・周りの大人が全力で助けると伝えられています。全校朝会だけでなく、学級担任も各教室で目の前の子どもたちに、より具体的に話をしています。ゴールデンウィーク明けの朝から重たい話ではありましたが、クラス分けから1か月経過し、そろそろ周りの友だちとの力関係、優位性が見えてくるこの時期だからこそ、あえていじめのことを考えさせ、自分のことと同時に友だちのことを大切にできる横堤小の子どもを育成するために取り組みました。

ご家庭でも、いじめのこと(特にSNSの使い方)についてお話しいただきたいと思います。学校と家庭、地域全体で、いじめを許さない雰囲気を育てていきましょう。